



もんま たくみ 門馬 巧 議員

協定締結

件数と要した費用は

町長／就任以来50件締結

町長

就任以来50件の協定締結をしております。要した費用は、主に協定相手側へ訪問する際の旅費等で55万円です。協定締結後、建物改修改装並びに備品等の具備しているものではありません。

門馬

町長は就任以来数多くの協定締結を結んでいますが、何件締結しましたか。また、協定締結に要した費用額、協定締結後の建物改修改装並びに備品等の具備費用額はいくらですか。

木造建物

駅前交流センターの今後は

町長／継続利用断念し撤去

門馬

①広野駅前木造交流センターについては、あまり活用されていまいのが実態ですが、この建物の目的、利用実績、維持管理費はこのようになっていますか。②所期目的は達成されましたか。今後の利用の見通しはありますか。

町長

①広野駅前木造交流センターは、町民有志、大学生、役員職員から発案され、県産木材の風評被害払拭や住民帰還の促進などを目的として平成28年3月に建築されました。

利用実績人数は、平成28年から29年にかけて、学生団体と未来学園の高校生が参加し、交流の場として延べ約250人が活用し、家具づくりワークショップは、約100人の参加がありました。週末のイベントは、高校生や地元の方を含めて約200人の参加がありました。平成29年から30年は、町内の和太鼓グループや盆踊り団体約50人に活動拠点として貸し出しました。②所期の目的は達成したと考えており、仮設建築物の使用期間が平成30年3月末で終了したことで、継続利用するには耐震工事などの費用もかかることから撤去することにいたしました。

門馬

※サポカー補助金制度はスタートしたばかりで、余りよく周知浸透していません。行政で制度を精査し内容を町民に周知し、あわせて町独自の補助制度を加設し制度利用を促し町民が事故のない安穩な生活が送れるようサポートできないか伺います。

町長

サポカー補助金は、政府による65歳以上のドライバー交通事故防止対策の一環として、予防安全装置を備えた安全運転サポート車の導入や装置の設置に要する経費の一部を補助するもので、他の補助金と重複申請できない制度となっております。町は本制度の周知浸透を図るため、チラシ等を作成して制度利用促進に取り組みます。

サポカー補助金

住民への周知を

町長／利用促進に取り組み



木造交流センター

振興公社

町との関係性は

町長／協同で事業を実施

黒田

①町と広野町振興公社はどのような位置づけになっているか伺います。②バナナ事業の収支を含めた現状について伺います。③震災後の決算について伺います。④今後の展望について伺います。

町長

①現在、町は一人株主として副町長を取締役に併任し、8人の取締役と2人の監査役のもと、取締役会を通して適切な経営にあたるべく相互に情報を共有し各種事業を協働で行っています。②広野産バナナは、定植後、順調に成長し令和元年8月に初収穫を迎えました。反響はとも良く、購入希望者やハウスの見学者が数多く来訪して頂きました。

バナナ事業の収支について、収支合計は約1200万円の赤字となっております。

事業収支計画に基づき3年計画の4年目で黒字化を目指し、支出の軽減を図っていきます。

③平成23年度は震災の影響から約1700万円の赤字、翌年以降は復興の拠点として作業従事者が施設等を利用した費用及び東京電力からの損害賠償により、平成24年度は約1320万円、平成25年度は約930万円、平成26年度は約1050万円、平成27年度は約380万円、平成28年度は2030万円、平成29年度は約910万円、平成30年度は約770万円、令和元年度は約640万円の赤字となっております。

決算内容については、毎年、会計帳簿並びに関係書類等を2人の監

査役が調査し、取締役会に適正に報告されており、取締役会で承認されています。

④ご愛顧いただいているパークゴルフ場、芝生広場、児童遊具施設、合宿施設等、積極的な誘客を図るため、新たな取り組みとなる国産バナナ栽培事業を軌道に乗せ、隣接するJヴィレッジと連携し、交流人口、関係人口の拡大を図っていきます。

東京大学内ベンチャー企業であるアリスマリ(株)と町内の大和田測量設計(株)との連携協定の締結により、二ツ沼総合公園の資源を活用し、ドローンによる3D画像とAIを使った新しいスマート農業の実証に取り組み、農家の経営安定化にも貢献していきたいと考えています。



栽培されているバナナ

くろだ まさのり 黒田 政徳 議員